



山の家4周年
満月の集い
おつきさま
ありがとう
知久寿焼
ライブ

2010.
9.23
お彼岸



秋分の日のおつきさまライブには、各地からたくさんの“知久”ファンが不便な片田舎にある「山の家」に足を運びはったのは「何んでかなあ〜〜」と。ふと、そんなことが頭の中に浮かんで来ました。

「ほんまに、なんでやるなあ〜」

東京・名古屋・長野・大阪・京都・奈良・四国・・・と、他府県から車や電車や自転車で・・・家族連れで・友達と・一人で・・・と。基本的には、“知久寿焼”という人に会いに・・・彼の歌を聞くために・・・ということなんでしょうが・・・。

あたいは、それだけではないんじゃないかなあ〜〜あぁあ〜〜と・・・、思っちゃたりしています。



「歎異抄」の第2章に関東の人たちが、命がけで京都の親鸞さんに会いに来はる場面が書かれたあつて、その時に、親鸞さんはその人たちが「身命を顧みずに足を運びはった理由」を一言で言い当ててはります。。。

それは、「往生極楽の道を、問い聞かんがため・・・」だ!と。

ところで、今回のライブに来はった人たちの「本当の本当の」理由は、それぞれの人が意識してはるか、無意識かを超えて「往生極楽の道」を求めてはることの、表れだったのではないのかなあ。と・・・。

この「往生極楽の道」という言葉には、すでにあたいたちの中に、出来あがってしまっているイメージが有って、それが、邪魔してしまうかも知れませんが、「ほんまに、自分の中の本当の自分??が求めているもの」それを求めて歩いていく・・・。



それが「往生極楽の道」なんよね!!!

知久くんの醸し出す雰囲気・・・と。。そして、あの歌声が呼び覚ます。自分の中で眠ってしまっていた何かを・・・歌詞が訴える不思議な世界に・・・。

そんなこんなに引かれるように集まった人たち・・・その、奥の奥に求めて止まないもの。そののちに響くもの・・・それを求めているんじゃないでしょうか?

それを親鸞さんは「往生極楽の道」を問い聞く・・・と、言い当てはったのかなあ???

